

令和3年



月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

■塗りつぶしの日は休館です。



『お姫様と名建築』

嶽本野ばら/エクスナレッジ/280.4 円

名建築の中で恋をして裏切られ、閉じ込められたお姫さまたち。マリー・アントワネットとヴェルサイユ宮殿、エリザベートとノイシュヴァンシュタイン城…。お姫さまとお城、宮殿、教会建築を巡る 30+α の物語を収録する。華やかな暮らしの奥で数奇な運命を負った女性たちの姿がありました。



『ものの見方が変わるシン・読書術』

渡邊康弘/サンマーク出版/019.1 円

読むのが遅い、1冊読み切れない、積読が増える…。このような読書の罪悪感を払拭し、最新の脳科学、認知心理学などの学説から、読書の新常識を提案。巻末に「新時代を生き抜くために必要なおすすめ 275 冊選」を収録。

『妖精の到来』

アーサー・コナン・ドイル/アトリエサード/147 円

20世紀初頭、イギリスのふたりの少女が写した「妖精写真」は本物か。コナン・ドイルが、世界中を騒がせた妖精事件の発端から証拠、反響までをまとめた、貴重なドキュメント。日本の妖精学の第一人者・井村君江の解説も収録。

『廃仏毀釈』

畑中章宏/筑摩書房/182.1 円

明治政府の神道国教化によって起こった廃仏毀釈は、民衆の熱狂による蛮行というイメージが流布している。神仏が共存していた時代から説き起こし、各地の記録から丁寧にこの出来事の実際を読みとく。

『福沢諭吉が見た 150 年前の世界』

福沢諭吉/彩図社/290.9 円

高級ホテルで迷子になるサムライたち。西洋式トイレに悪戦苦闘するお殿さま…。福沢諭吉が出版した日本初の海外旅行ガイドブック「西洋旅案内」の現代語訳を通して、幕末の武士が驚いた西洋文明を紹介する。

『滋賀のトリセツ』

昭文社/291.6 円

琵琶湖をめぐる地形の秘密、信長と秀吉の城と足跡、日本屈指の住みやすさ…。滋賀県の地形・地質、歴史、産業・文化など多彩な特徴と魅力を地図で紹介。知られているようで知られていない滋賀県の意外な素顔に迫る。

『ミャンマー危機』

永杉豊/扶桑社/312.2 円

軍部によって庶民が虐殺されているミャンマーのクーデター。今、何が起きているのか？日本政府の果たすべき役割とは？日本企業の進むべき道は？ミャンマーの歩んできた歴史と現在、未来を解き明かす。



『14 歳から考えたいレイシズム』

アリ・ラッタンシ/すばる舎/316.8 円

「いまも」「どこにでも」ある<レイシズム=人種主義>の問題。“人種”という実はとらえどころない“ものさし”で、あちこちに“壁”をつくって対立してきた世界史をひもとき、人間存在のありようと未来を問う。

『古代の食を再現する』

三舟隆之/吉川弘文館/383.8 円

古代日本人は食べ物をどう加工し、調理していたか。「正倉院文書」から土器、木簡までを総動員し古代食を再現。古代日本人の食生活や、病気との関係を明らかにする。オンライン開催の 2020 年 9 月のシンポジウム討論も収録。

『最新宇宙大図鑑 220』

ニュートンプレス/440 円

どこかで聞いたことはあるけれど、しっかり説明するのはむずかしい。そんな宇宙のキーワード 220 個を、宇宙探求の歴史、華麗なる星の一生、太陽系と星座、宇宙観測の最前線などのテーマ別に取り上げて、丁寧に解説する。

『ツバメのせかい』

長谷川克/マイルスタッフ/596.6 円

ツバメも空耳する!? ツバメの巣は動物界きってのイノベーション!? 第一線の研究者が“ツバメの世界観”をわかりやすく解き明かす。ツバメの種類・分類・生態についても紹介。「ツバメのみみつ」の姉妹本。

『土木の仕事ガイドブック』

柴田久/学芸出版社/510.9 円

ゼネコン、鉄道会社、設計事務所…。土木の仕事 19 分野 35 人のプロフェッショナルが、日々の業務内容ややりがいなどを具体的に語る。業界本音トーク、土木の仕事に役立つ「資格」などを記したコラムも掲載。

『リュック作り教室』

水野佳子/主婦と生活社/594.7 円

巾着リュック、フラップあきリュック、ワイヤー口金リュック…。家庭用ミシンで作れるリュックを、「縫い代の始末」や「肩ひも」といった項目ごとに、工程写真を多用してわかりやすく解説します。

『カンロ飴食堂へようこそ』

カンロ株式会社/小学館/596 円

調味料(アミノ酸)を添加せず、安心、安全な材料で作られている「カンロ飴」。人気プロガーたちが考案した、「カンロ飴」を隠し味にして簡単に作れる定番おかずからアイデアおかずまで、たくさんの料理を紹介します。

『種から種へ命つながるお野菜の一生』

鈴木純/雷鳥社/626 円

普段目にはしている野菜の姿は、どれも命の途中的ほんのひとコマ。ごま、とうもろこし、きゅうり、ミニトマト、ブロッコリーなど、さまざまな野菜の一生を追った、6 年間の記録。詳細な成長過程をカラー写真で紹介する。

『バンクシー』

バンクシー/新星出版社/723.3 円

落書きという犯罪行為を高度なアートへと作り変えたバンクシー。サザビーズオークションで切り刻まれた作品を含む 140 点以上を解説付きで収録。彼が語りだしている「ストーリー」を深く掘り下げる。

『本の力』

酒井京子/童心社/726.6 円

3 年がかりで作出した「おいしいのぼうけん」。社内の反対にあいながら出版した「14 ひきのシリーズ」…。多くの絵本・紙芝居を生み出してきた編集者であり現童心社社長の著者が、傑作絵本がいかにして誕生したかを語る。

『スポーツ医学を志す君たちへ』

武藤芳照/南江堂/780.1 円

スポーツ医学の役割は、スポーツ外傷・障害の対応以外にも、リハビリテーション、子どもの発達、高齢者の健康増進など、幅広い応用分野がある。著者の経験をもとに、スポーツ医学の意義と面白さを伝える。

『相手に「伝わる声」の出し方』

田中直人/あさ出版/809.2 円

「いい声」は好みの問題。「聞き取りやすい声」は万人に共通。心(メンタル)、体(フィジカル)、技(テクニック)の 3 つのトレーニングによって、自分の声をどんどん理想的な声に成長させる方法を解説する。

『少年漫画詩集』

田河水泡/教育評論社/911.56 円

戦前、全国の少年たちに圧倒的な人気を博した漫画「のらくろ」。その作者・田河水泡が、敗戦後の食うや食わずの時代の中で、子どもたちを詩と漫画で愉快地笑わせ、勇気づけようとした詩集。

『日本の原風景』

安野光雅/山川出版社/915.6 円

むき出しの火山、氾濫する河川、山ふところに抱かれた神社、延々と連なる棚田など、自然は驚くべき早さで様相を変えていく…。日本の原風景を求めて列島各地を訪ね歩いた著者による作品集。「原風景のなかへ」が新たに画集に。

『サヨナラの前に、ギズモにさせてあげたい 9 のこと』

ベン・デイヴィス/小学館/933 円

愛犬ギズモが老い先短いことを知った 13 歳のジョージ。最高の一生を送らせてやりたいと考えたジョージは、「ギズモにさせてあげたいことリスト」を作り、実行していき…。笑えて泣けるドタバタ感動ストーリー。

『雨の日は、一回休み』

坂井希久子/PHP 研究所/F 円

40 代で派遣社員。ストレス解消にネット上で女子高生を装う男がピンチに…。「天気雨」ほか、働くおじさんの日常を時におかしく、時に切なく描く全 5 編の連作短編集。『文蔵』連載を加筆修正して単行本化。

『星影さやかに』

古内一絵/文藝春秋/F 円

非国民と呼ばれた父を恥じていた、軍国少年の息子に届いた遺品の日記。激動の昭和を生きた親子の記憶が紐解かれる。宮城県古川を舞台に描く、三世代をつなぐ家族小説。『オール讀物』掲載に書き下ろしを加え単行本化。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

◆◆ホームページアドレス◆◆ <https://www.library.otsu.shiga.jp>



行事予定は裏面へ